

情勢判断

今月の情勢 ~経済・金融の動向~

米国経済・金融

6月19~20日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、08年12月から据え置く政策金利(史上最低の0~0.25%)を少なくとも14年遅くまで維持する方針とともに、11年10月から実施している長期国債を買入れる一方で同3年以下の国債を同額売却するという「オペレーション・ツイスト」の期限を6月末から今年末まで延長することとした。

経済指標をみると、5月の雇用統計は、失業率が8.2%と前月(8.1%)から悪化するとともに、非農業部門雇用者数も前月比6.9万人と事前予測(同:15.0万人)を下振れた。こうしたことから、米国経済に対する減速懸念が続いている。

国内経済・金融

4月27日の日銀金融政策決定会合では、政策金利の誘導目標(0~0.1%)を据え置く一方、金融資産等買入れを、合計65兆円程度から70兆円程度へと増額することを決めた。また、6月14~15日の同会合では、5月会合に引き続き同政策の維持を決定した。

経済指標をみると、機械受注(船舶・電力を除く民需)の4月分は、前月比5.7%と2ヶ月ぶりに増加したほか、4~6月期を通じての事前見通しでも、同2.5%と増加が見込まれている。一方で、4月の鉱工業生産指数(確報値)は、前月比0.2%と2ヶ月ぶりに低下した。製造工業生産予測調査によれば、5月は同3.2%と低下するものの、6月は2.4%と上昇が見込まれている。このように、回復の動きはまだ鈍い。

金利・株価・為替

長期金利(新発10年国債利回り)は、欧州債務問題や米国経済の先行き不安に対する懸念が拡大したことから低下傾向での推移が続き、6月上旬には一時約9年ぶりに0.8%割れとなった。17日のギリシャ再選挙の結果を受けて欧州懸念は一時後退したが、スペインの銀行問題が不安材料視され、6月下旬には再び0.8%台前半で推移している。

日経平均株価は、米国経済の先行き懸念の高まりや欧州債務危機の再燃を受けて続落し、6月上旬には一時8,200円台まで値を下げた。ただし、ギリシャ再選挙後に欧州懸念がいったん後退したとの見方から、6月下旬には8,800円台を回復している。

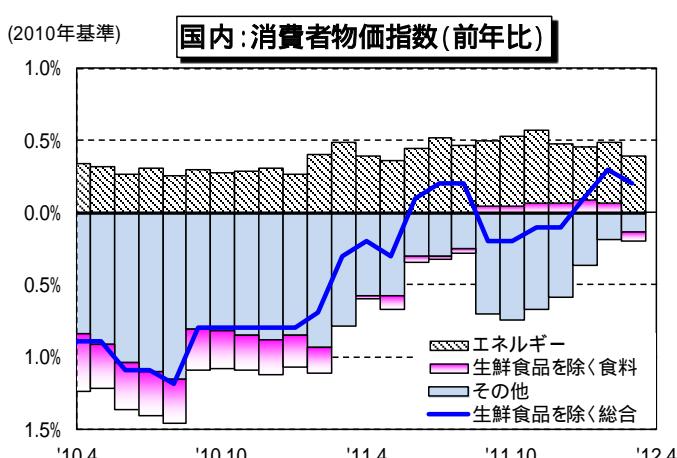
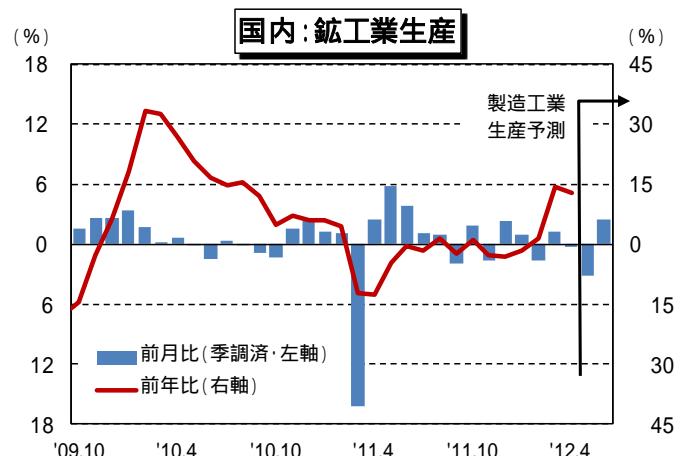
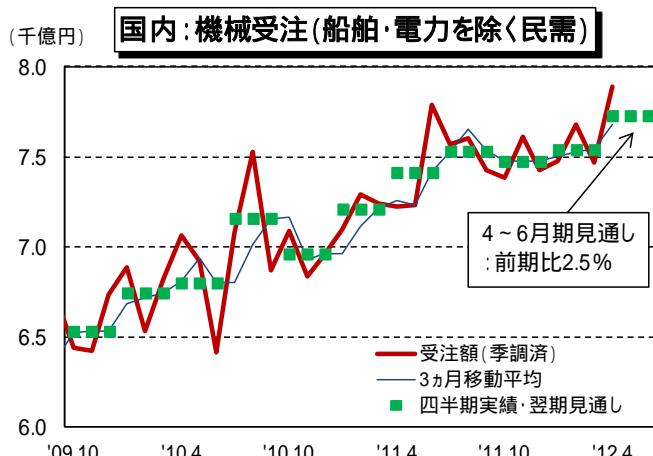
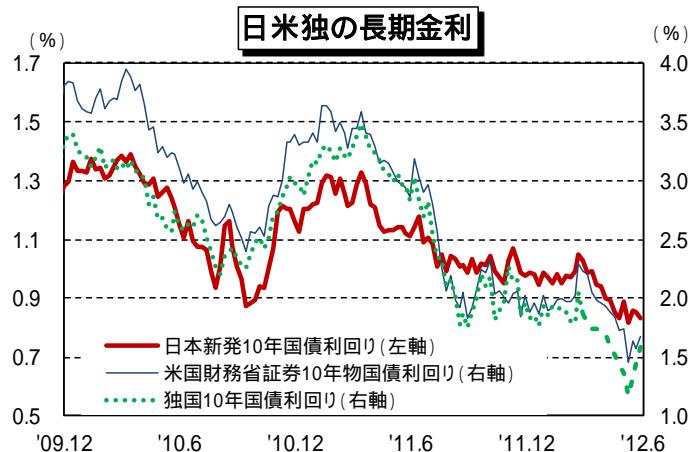
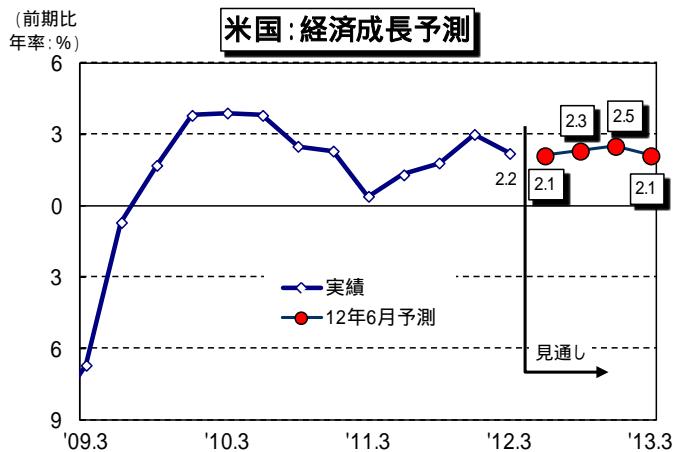
外国為替相場のドル円相場は、日銀の追加緩和の継続期待や米国経済の回復期待の高まりなどを受け、3月中旬には約11ヶ月ぶりに一時1ドル=84円台まで円安が進んだ。しかし、その後は米国経済指標の予想下振れなどから米国経済の減速感が高まり、5月中旬以降は1ドル=80円前後と円の高止まりが続いている。一方のユーロも、欧州債務危機の再燃により1ユーロ=100円割れでの推移が続くなど、弱含んでいる。

原油相場

原油相場(ニューヨーク原油先物・WTI期近)は、欧州債務危機などを背景とした世界経済の減速懸念によって石油需要が減退したことから、4月上旬以降は下落傾向で推移しており、6月下旬には1バレル=80ドル台を割り込んだ。

(2012.6.25現在)

内外の経済・金融グラフ



詳しくは当社ホームページ (<http://www.nochuri.co.jp>) の「今月の経済・金融情勢」へ